



横浜市立富岡小学校

学校だより 2月号



G I G A スクール構想実現に向けて

副校長 藤田 敏明

1年のうちで、最も寒い時期を迎えました。児童には感染症拡大防止のため、特に特別教室での活動や給食時間など、例年と違う制約の中で活動してもらわなければならない場面も多いのですが、休み時間や体育の活動など、寒い日でも校庭で縄跳びをしたり、走り回ったりしている子どもたちの姿に、たくましさを感じます。

昨年末には、家庭と学校とをオンラインで接続するための試行段階として、「ロイロノートスクール」を使用しての接続試験等にご協力いただき、ありがとうございました。初めての取組にもかかわらず、半数以上のご家庭から返信をいただきました。また近日中に、二度目の接続試験を行う予定です。ご面倒をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

富岡小学校には現在、約40台のタブレット端末があります。これらの端末は、各学年、様々な学習で活用しています。「発表とみおかタイム」等の発表に向けて、プレゼンソフトを使って総合の時間の活動内容をまとめる活動、体育でのカメラ、ビデオ機能を使って自分や友達の動きを確認する活動、プログラミングソフトを使った動画の作成、「ロイロノートスクール」で試行したように、通信機能を使い、グループ1台の端末に教師からワークシートを配付し、課題を共有できるようにするなど、様々な活動でフル活用しています。ただ、台数が限られているため、他学級が端末を使っていて使えないことや、校内の通信環境が整っていないため快適に動作しないことなど、不自由なこともあるのが実情です。

さて、横浜市立学校では、文部科学省が推進する「G I G A スクール構想」の実現に向け、各学校の校内ネットワーク環境を整え、クラウドサービス（ネットワーク経由でのサービス利用）を活用し、来年度から原則各児童1人ずつ、1台のタブレットを使って活動できるよう、準備を進めています。

来年度より準備が整い次第、日常的に全児童がタブレット端末を使用して、クラウドサービスを利用できるようになる予定です。発言している児童だけでなく、授業に参加している児童一人ひとりの考えをその場で共有したり、小グループの活動では、友達のアイデアをタブレット上で交換することが日常の活動でできるようになるなど、情報機器の活用の幅が飛躍的に広げられるようになります。また、児童が個人で記録した学習データは、クラウドサービスを使うことで、自宅、学校双方でアクセスが可能になります。帰宅後に、その日の活動を振り返ったり、次の日の活動に向けて自宅で準備したデータを、学校でも使えるようにもなります。今年度の4・5月のような休校等の緊急事態があった場合の、家庭と学校の連絡手段として活用することも考えられます。

今のところ、学校で使う端末は、家庭に持ち帰ることを想定していないため、利用するにあたって不自由なこともあるかと思います。また、情報モラルについての指導をより充実させ、ネットトラブル防止を図るために、保護者の皆様にもご協力をお願いすることも出てくるかと思います。保護者の皆様からのご協力をいただき、整備された環境を効果的に活用し、富岡小学校で、より豊かな教育活動が展開できるよう、準備していきたいと考えています。

「横浜市におけるG I G A スクール構想」について

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/plan/giga.html>